取材日：平成25年8月7日（水）
取材先：リプロ株式会社（三重県四日市市）
レポーター名：四日市大学経済学部2年　黒つぐみ

◇◆◇

～リプロ株式会社の考える地域貢献活動～

源泉かけ流し天然温泉で有名なユーユー・カイカン（三重県四日市市）を経営するリプロ株式会社では、様々な地域貢献活動を行っている。その中でも私がとりわけ素敵だと思った活動は、ユーユーハウスによる障がい者雇用の「菌床しいたけ」の栽培と NASPA でのサッカースクールである。まずユーユーハウスについてだが、これは現会長が、平成 21 年時点で最低であった三重県の障がい者雇用率をどうにかできないものかと思い、設立したものである。ユーユーハウスで働く障がいのある人のほとんどが精神障害を抱えているため、今回直接話を伺うことはできなかったが、実際に働いている姿を見て、その活き活きと仕事をようすからユーユーハウスが設立された意味の大きさが感じられた。ユーユーハウスでは「菌床しいたけ」の他にいちごの栽培を行っている。栽培に携わっているのは、働いている人の中でも経験を積み技術の上がった人だそうだ。障がいを抱えているからといって仕事を限定してしまうのはなく、技術力が上がった人にはその分難易度の高い仕事を任せるという、ステップアップ式の雇用が働いている人たちの自信ややる気に繋がっているのであろう。また、障がいのある人を障がい者として雇用するのではなく、一労働者と考えて雇用し、さらに自立できるように育成することを目標としているリプロ株式会社の雇用スタイルは、障がいのある人達にとってとてもやりがいがあり、心強いのではと思った。

次に NASPA でのサッカースクールについてだが、ここではサッカーの技術を教えることの他に、4 つの約束を子供たちに守らせている。この 4 つの約束は「あいさつをきちんとする」など特別難しいことではない。しかし、親が子供に言い聞かせて簡単にできるようになるものでもない。子供たちはサッカースクールという環境の中で、約束を守っているというよりはごく自然に約束を守った行動がとれているのである。つまり子供たちは親が教えるまでもなく、あいさつなどが当たり前にできるようになっていくのだ。このことは人材育成という役割はもちろんのこと、子育て支援の役割も担っているといえる。

一つの地域貢献活動が地域にもたらすものは必ずしも一つではない。これこそが地域貢献活動の醍醐味であり、リプロ株式会社が大切にしていることなのではないだろうかと、私は取材の中で感じた。そう感じたのは「地域貢献活動を通して地域が元気になれば、きっと来てくださるお

客様も元気になるはず」と佐野社長が話していたからだ。佐野社長のこの言葉は、お客様の満足にも繋がるように広い視野で地域貢献活動を考えているからこその言葉に思えた。それゆえリプロ株式会社は、地域貢献活動を地域のためだけに行うものではなく、お客様のためにもなるように行うものだと広く考えているのだなと感じ、その考え方に私はとても共感した。

◆取材後記◆

今回の取材の中で一つ気付かされたことがあります。それは障害のある人に対する接し方についてです。私は今回取材をさせていただくことになり事前にリプロ株式会社について調べている際、精神障害を抱える人とのコミュニケーションはどうやっているのだろうか、接する際にどんなことに気を付けなければならないのだろうか等の疑問を持ちました。そこで、佐野社長に疑問に思ったことについて聞いてみると、接し方について「障がい者の方に良い面や悪い面をきちんと伝えるようにしています」との返答が返ってきて驚きました。まるで一般の労働者と変わらない接し方じゃないかと。しかしよくよく考えてみると、障がいを抱える人にとって人と違う扱いをされるのが一番嫌なのかもしれないことに気付きました。少し考えればすぐに分かりそうなことですが、私は今まで気付くことができませんでした。些細なことですが、とても大切なことに今回こうして気付くことができて、本当によかったです。